



- 岐阜支社  
岐阜市柳ヶ瀬通  
1-12  
岐阜中日ビル8階  
電話 058(266)7576  
FAX 058(262)6571
- 東濃支局  
多治見市上野町  
1-75  
日映マンション  
III602  
電話、FAX兼用  
0572(23)7812
- 西濃支局  
大垣市室本町2の  
39竹中ビル203号  
電話、FAX兼用  
0584(75)1289

# 中部理化、大野町に新工場

## A T部品増産に対応

表面処理メーカーの中部理化(本社愛知県東郷町、松野成章社長、電話0561・39・0555)は、岐阜県大野町に工場進出する。旧学校給食センターの土地と建物を大野町から賃借。自動車用自動変速機(AT)部品のアルミニウム皮膜加工処理を行う新工場を稼働する。増産態勢を整え、得意先の自動車サプライヤーからの受注増に対応する。投資額は数億円の見通し。今後、設備の設計製作などに着手。2019年初頭の操業開始を目指す。

大野町役場で24日、企業立地協定締結式などを行った。松野社長や大野町の宇佐美晃三町長らが出席した。

新工場は、大野町瀬古の旧大野学校給食センターの建物を活用する。給食センターは昨年7月に廃止。跡地利用を検討してきたが、電源装置、自動搬送機など、

### 19年初頭の操業開始めざす

大野町役場で24日、企業立地協定締結式などを行った。松野社長や大野町の宇佐美晃三町長らが出席した。

新工場は、大野町瀬古の旧大野学校給食センターの建物を活用する。給食センターは昨年7月に廃止。跡地利用を検討してきたが、電源装置、自動搬送機など、

表面処理に必要な設備を導入する。

同社は、アルミニウムの酸化皮膜で金属を覆う「コアルマイト加工」を得意とする。耐食性や耐摩耗性に優

新工場では、AT用バルブを月200万個加工処理する計画。20年にはさらに生産ラインを増設する方針だ。

松野社長は「安全を第一に考え、環境保全や美化、防災に配慮し、事業にまい進していく。町の発展に微力ながら貢献したい」とあいさつした。



企業立地協定締結式に出席した松野社長(中央)ら

中部理化は1963年設立。パートなど含む従業員数は約170人。17年8月の売上高は57億円。

# 中部理化が大野町進出

## 町と協定新工場、1月稼働

自動車部品などを製造する中部理化(愛知県東郷町、松野成章社長)は、揖斐郡大野町瀬古の町学校給食センター跡地に新工場を整備する。同センターの建物を活用し、年内にオートマチックトランスミッション(AT)用バルブの生産ラインを導入、来年1月の操業開始を目指す。

生産力の強化を目的に、国内では子会社を含めて4カ所目の生産拠点となる。町隣接の本巣市に取引先企業がある点、工場建設の必要がなく早期に操業できる点などから進出を決め、町と同センター用地・建物の貸借契約を交わした。用地面積は4500平方メートル、建物は鉄骨2階建て延べ14

00平方メートル。契約期間は5年間。来年から月200万



00平方メートル。契約期間は5年間。来年から月200万個のAT用バルブを生産する計画。

24日に同町役場で企業立地などに関する協定の締結式があり、松野社長と宇佐美晃三町長が協定書を交わした。松野社長は「地域に根差し、町の発展と長期にわたる工場運営に向けてまい進する」と述べた。

同社は、自動車のATやブレーキなどに使われるアルミニウム製部品の硬度を高めるアルマイト処理を手掛ける。2017年8月期の売上高は約70億円。

企業立地などに関する協定を交わした中部理化の松野成章社長(中央)と宇佐美晃三町長(左)揖斐郡大野町役場

## 大野町学校給食センター跡再活用

## 中部理化が工場進出

## 町と企業立地協定締結



自動車や家電製品の部品を製造、加工する「中部理化」(愛知県東郷町)が、大野町に進出する。同町瀬古の町学校給食センター跡を、そのまま工場として再活用する。来年1月の稼働を目指す。(広田和也)

## 来年1月、稼働目指す

同社は自動車のブレーキやオートマチックトランスミッション(AT)など、アルミ部品の摩耗や腐食を防ぐ表面加工などを手掛ける。大野町への進出で、子会社を含めた国内の生産拠点は四方所目となる。

活用する給食センターは、一九八五(昭和六十)年に完成した鉄骨一部二階建て約千三百平方メートルの建物。町は、池田町との合同給食センターが完成し

再活用される町学校給食センター跡―大野町瀬古で(同町提供)

場、二十四日は大野町役場で企業立地協定の締



協定書を交わした(左から)宇佐美町長、松野社長、久保田区長―大野町役場で

結があり、松野成章社長と宇佐美晃三町長が協定書に署名。さらに、工場がある瀬古区の久保田博視区長を加え、環境保全と災害時における施設開放の協定二件を締結した。

松野社長は「町の繁栄のために長期にわたる工場運営に尽力し、町民への感謝を忘れず、出と経済の活性化に期待したい」と述べた。

宇佐美町長は、東海環状自動車道大野・神戸インターチェンジの一九九年度開通などを見越して、企業誘致が着実に進んでいることを紹介。「企業と町がともに発展し、雇用の創